

2019アジア選手権報告書

参加団体名：NTT 東日本

氏名：三浦 友之

種目：男子ダブルスカル

1. レースの展開、結果、反省点

今大会は国体後、約3週間程度の準備期間があったが、台風19号の影響と当初出場予定であった選手の故障により、最終的な出漕クルーの編成は出国直前であった。そのため予選は、ほぼぶっつけ本番といった状態で臨むことになった。

Heat、Repechage では、首位のクルーに1000m通過時点で既に大きく水をあけられてしまう展開となってしまった。最後のレースである FinalB では1位のタイに1500mまで一艇身程の差でついていくことが出来たが、ラストクォーターのタイの艇速には及ばず総合8位という結果だった。クルーを組んで間もないこともあり、レースを重ねるごとに確実に艇速はあがっているように感じられた。

今大会のオープンダブルスカル（1位：中国）の2000mのタイムカーブを分析すると第一クォーターと第二クォーターのタイム差が約10秒あった。私自身、小艇でのオープンカテゴリーでのレースは初めてだったので、「オープン選手は速いから、あまりはなされないように。。。」と意識しすぎたせいもあり、冷静に考えて第一クォーターは普段漕いでいるよりもオーバーペースであったと思う。

2. 国際大会を経験して良かったこと、困ったこと、今後のボート人生にどのように影響するか。

国内では500mを1：30前後で通過するクルーはなかなかいないので、良い刺激になったと思う。さらに、上位の大会に挑戦しようと考え、そのスピードを維持し続けられなければ勝負にならないという印象。フィジカル、テクニカル両面での強化が必要であると感じた。

国際大会は初めてではないが、少々戸惑ったのがコースの利用方法。コース監視スタッフの気分？なのかコースの利用方法が会場に掲示してあったものと微妙に違うということが毎モーションあった。

食事の面では、宿泊しているホテルでビュッフェ形式で摂ることが出来たが、辛い物が多く、辛い物が苦手な人は栄養バランスが偏りがちになりそうだと感じた。

最終日は私自身レースがなかったので日本チームの応援の傍ら、観戦をしていた。ウズベキスタンやイランなどアジア圏でのボート選手は体格がいいばかりでなくテクニカル的にも上手だと思った。今回、派遣させていただいた日本選手団の選手のなかでは私が一番年長者だったが、わたしよりも年齢が上のライバル国の選手がメダルを獲得する姿を見ることが出来、これもまた良い刺激になった。